



ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】子供が喜ぶ論語
瀬戸 謙介 著 致知出版社
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2013年7月1日 Vol. 129
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡 邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

受け入れるチカラ

平年よりも早く梅雨明けとなりましたが、水不足が心配されるところです。とても暑い日が続いていますので、熱中症には室内にいても注意が必要ですね。

夏といえば、“お化け”ですがその存在を信じますか・・・？その他にも、霊やUFO、宇宙人といろいろなものがあります。多くの人は、目の前にあるもの、目に見えるものしか信用しないのではないのでしょうか。わたしもそんな風に考えてきました。

しかし、世の中には目に見えないものの方が多いと思うのです。酸素や窒素、紫外線や赤外線、放射線や大腸菌、愛や友情も目には見えません。

イチロー選手が小学生の時に書いた作文には、とても現実的でより具体的なことが書かれていました。「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会にでて活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。そして中学、高校と活躍して高校を卒業してからプロ野球選手になれると思います。そしてその球団は、中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で、契約金は、1億円以上が目標です」というものでした。大きな夢を描くことができる一番の要因は、『受け入れるチカラ』を持っていることなのだと思います。イチロー選手の話を知り、周りの大人は、本当にできるとは思っていなかったのではないのでしょうか。できると信じて受け入れたイチロー選手自身が何も疑わずに受け入れたのだと思います。子どもの「信じるチカラ」は未来へとても大きな力になります。

わたしたちは、大人になるにつれて「受け入れる」より「否定する」ようになってしまいます。「こうなりたい」から「こうならないように」と言う様に・・・。わたしたちが成長する中で、経験や知識が心の中で一杯になり、新しい考え方や行動を受け入れず、自分のやり方や考え方を変えなくなってしまう。

「もしかしたらこんなこともあるかもしれない」、「そういう考え方もあるよね」、「こんなことをすればどうなるんだろう」と言う様に、一旦受け入れてみるのがとても大切なのだと思います。そういった考え方で行動することで未来への可能性が大きく広がっていくのだと思います。



おもてなし

ザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニーというホテルがあります。1983年にアメリカのアトランタで誕生しました。わずか20数年間で世界のホテル地図を塗り替えてきました。

アメリカのビジネス雑誌では常にトップクラスの評価を得ています。アジアにおいても、シンガポール、上海、香港などのリッツ・カールトンは、従業員にとって、最も働きがいのあるホテル・カンパニーとして評価を受けています。

驚くことに、リッツ・カールトンの入社面接では、会場が個室のオフィスではなく、ホテル内の大宴会場で行います。しかも入り口にはドアマンが2人立って応募者を出迎えてくれるそうです。会場内にはグランドピアノが置いてあり、プロのミュージシャンが静かに演奏をしています。

面接に入ると、ウェイターがコーヒーやジュースを運んでくれます。このウェイターたちはリッツ・カールトンの管理職の人たちで、応募者に正装で対応してくれています。

リッツ・カールトンにはもともと相手が誰であろうと“親切なおもてなし”をする企業文化があります。しかし、この対応を見て三千人の応募者の半数が「自分には合わない」と帰ってしまうそうです。応募者にもお客様と同じような“おもてなし”をするのは、最初にリッツ・カールトンの理念や価値観を伝えるためです。

実際に自分自身が受けたサービスを通して、リッツ・カールトンの企業文化に適応できるかを考えてもらう入社面接って凄いです。最初が肝心ってこのことですね。



【座右の銘にしたい名言】



過去と未来を鉄の扉で閉ざせ。今日一日の枠の中で

生きよ。

(デール・カーネギー/講演家・著述家)